

病院における乗用車、バス、バイクを起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	10~11	訪問看護施設（助手席1名同乗）訪問に出るため、駐車場から右方向に車道に出ようと停車し、交通量が多いためタイミングをみていた時、バックしてきた車が左後に追突した。その際、当方の左後のバンパーがずれて浮いた。	46	1000~9999
2	15~16	帰宅途中、路上で報告者が乗車していた自家用車が対向車線へ入り、トラックと正面衝突を起こした。原因としては、睡眠不足が原因による仮眠状態が事故を引き起こしたとの見解である。	39	1000~9999
2	13~14	住宅地の信号機がなり路地の交差点でバイク走行中に右から来た、軽自動車の助手席（左前輪後部辺り）に衝突した。	35	—
3	10~11	入院患者を他医療機関より当院へ搬送してきた際、ストレッチャーに横たわる患者を搬送車の機能により機械的に降車させたところ、風により患者がかけていた毛布が飛ばされかけたため、横にいた被災看護師が咄嗟に一步踏み出し毛布を押さえた際、ストレッチャーを載せる台と地面との間に左足甲がつぶされる形となった。ストレッチャーを降車させる際は操作する係員以外は近寄らないこととしていたが、患者が寒がることを懸念した看護師としての職業観がこのような事態を招いたと考えられる。	51	50~99
4	14~15	駐車場にてリフト車から患者様を降ろした後、フックチャックがはずれていることに気付き、それを直して降車しようとしたところ、後部リフトを上げたままにしていた事を失念して転落し、腰部を強打した。	69	1000~9999
5	16~17	医師の送迎で走行中、前方から相手車両が対向車線に進入して来たため、左側に避けたが相手車両と衝突した。その際に胸部等を強く打ち、頸椎捻挫等の負傷を負った。	51	100~299

5	16~ 17	業務終了後、帰宅のため病院職員運転の車の後部座席に乗車し走行中、前方から相手車両が対向車線に侵入し、正面衝突した。その際に腰部等を強く打ち、腰椎 58 299	100 ~ 299
5	8~9	被災者は、中型バイク（250cc）で通勤中、病院の敷地内にある駐車場にバイク 66 299	100 ~ 299
6	15~ 16	当日はデイケア職員として施設利用者を載せたマイクロバスに補助者として乗務 50 99	50~ 99
6	9~ 10	信号のある交差点で、患者を迎えに行く途中、青信号を確認して、交差点に直進 73 499	300 ~ 499
7	7~8	バイクで転倒しているスタッフがいたので助けようとバイクで起こそうとしたと 62 299	100 ~ 299
7	9~10	市道の病院正面玄関への入口近辺で外来患者が車両を正面玄関の空スペースへ移 64 499	300 ~ 499
7	15~16	訪問介護先の個人宅にバイクで向かう途中、見晴らしの良い交差点を直進しよう 64 ~	100 ~

		乗っていたバイクごと転倒し、全身を道路に強く打ちつけて負傷した。		299
7	16～ 17	通所リハビリの職員である本人が、通所リハビリの送迎時に、利用者宅の駐車場で、本人が運転席から降りるとき、両足を着いて立とうとした際に右足が滑り、咄嗟に右手を着いて転倒した。その場所は床がすり減っていて、砂利で滑りやすくなっていたため、その砂利で滑って、右手を着いて転倒を防ごうとして負傷した。	41	10～ 29
7	16～ 17	早出勤務を終え、駐輪場にて帰宅しようとバイクに乗り、発進しようとアクセルを回したとき、バイクを支えるために地面についていた右足首を捻じった。歩行困難のため同僚に送ってもらい、病院を受診したところ、骨折はなく、靭帯損傷の疑いとの診断を受けた。	28	100 ～ 299
7	10～ 11	出張先へ向かうために自動車を運転中、玉突き事故で止まっている4台目の車（大型車）の後部に追突した。その後、自力で車外に出て、救急車で搬送された。	30	1000 ～ 9999
9	16～ 17	訪問看護のため利用者宅に向かって、原付バイク走行中、交差点右折直後、雨のためスリップし左側に転倒し、下肢が原付バイクの下敷きとなる。痛みと腫れが強くなり、整形外科病院でMRI検査を受けた。	57	100 ～ 299
9	12～ 13	検診終了後に検収車を駐車場に駐車した後、車内の荷物を取ろうと助手席側から荷物を取り昇降ステップを踏みそこね、腰部から地面へ落ち腰部を強打した。	50	300 ～ 499
12	16～17	書類運搬のため横断中、前方道路から右折してきた軽自動車に気付かず接触し転倒し、右脇腹等を打撲した。	58	10～ 29
12	8～9	出社時、当院職員駐車場で車から降りる際、時間がなく、車のドアを開けて慌てて足を投げ出し、立ち上がろうとしたため、膝をひねり右膝を負傷した。現場は、砂利を敷いている舗装されていない駐車場であった。	62	100 ～ 299

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html